

2022 年度人文社会科学部後援会支援事業報告書

申請者：川島佑介

事業区分：学生の教育研究活動支援

事項：実地学習（自治体視察・牛久市）への交通費補助

期間：2022 年 11 月 12 日（土）

茨城県も、県南の一部地域を除いて人口減少、賑わいの喪失、社会的・物理的インフラの老朽化と減衰に悩まされている。こうした状況を受けて、やはり多くの自治体が、まちづくり、賑わい創出に乗り出しているものの、問題構造は複雑であり、解決は容易ではない。さらに、行政が特定の方向に町を誘導することにも、中立性の観点からは批判もある。

そこで、①商店街を失い、純粋住宅地へと変容するとともに、人口減少にも直面するニュータウン、②非常に高い知名度を誇る観光地であるが、民間施設・宗教施設でもある牛久大仏、③近代日本の遺産であり、潜在的な観光地であるものの、赤字構造から脱しえない牛久シャトー、以上三つの施設・地域を抱える牛久市を視察することで、今後のまちづくり、賑わい創出のヒントを得ることにした。

①に関しては、基本的には住民自身や、自治会の活動によってニュータウンはなんとか維持されていることが明らかになった。住民も、なんでも自治体任せにするのではなく、自助の意識を持つことが重要であろう。②に関しては、確かに自治体が特定の民間団体・宗教団体と不適切な関係を持つことは許されないが、道路整備やゴミ収集など、一般的な項目でありつつも、実態に即してじゅうぶんなインフラを提供していくことは認められるし、まちづくりにとってはむしろ必要なことが明らかとなった。③に関しては、市民の憩いの場となっていると同時に、その周辺の賑わいづくりにも寄与していることが明らかになった。

概して言うならば、確かに、現代日本の各自治体が抱える課題は容易には解決できないことも事実であるが、自治体が活動できる余地は大きいし、また必要であることを学んだ。

今回、視察した学生たちは、長引くコロナ禍によって、大きな制約を受けている世代である。そのような世代だからこそ、自らの五感で学んだものは多かったと思われるし、学生同士の紐帯も一層強くなったように思われる。この機会をくださった、人文社会科学部後援会に対して、厚く感謝申し上げます。後援会からの支援は、公共交通機関が事実上使えない、ニュータウンと牛久大仏へのタクシー交通費に充てた。本当に、ありがとうございました。



ニュータウンを視察中。通りかかった人に説明を受けている (①に関係)



住宅街となったニュータウンを視察中。人出は多くはない (①に関係)



かつてのニュータウンの大通り (①に関係)



賑わいのある牛久大仏前の商店街 (②に関係)



電灯やベンチなども整備されている (②に関係)



説明を読み込む学生たち (②に関係)



牛久大仏で記念撮影（②に関係）



日中に牛久シャトー周辺を視察（③に関係）



夜間はまた違った雰囲気を見せる牛久シャトーに感動する学生たち (③に關係)



牛久シャトーのベンチで休憩がてら意見交換 (③に關係)